

5 修羅曳きイベント（大阪府高槻市）について

藤本：大阪南港に着いた後、高槻市での修羅曳きイベント（1000 人で運ぶ大王の石棺）は、高槻市の方からやらせてくれとお願いがあったんですよ。

高木：そうです。関西の実行委員会は、7～8 人の考古学関係者がいました。最終的には、受入れ先である高槻市の意向が強かったのですが。

藤本：修羅曳きの時は下川先生も現場にいらっしゃいましたか？

下川：いえ、私はもう帰り道でした。

藤本：高木さんは実際に修羅を曳かれましたよね。

高木：実行委員会からも、誰か曳かないといけないだろうからと思って。

藤本：修羅曳きの時、高槻市民の熱気はすごかったですね。ギャラリーも含めたら、1000 人を超えていたと思います。

高木：「1000 人で運ぶ大王の石棺」と銘打って。本当にすごかった。

藤本：高槻市はちょうど今城塚古墳の整備事業をやっている最中だったので、事業に対する市民の理解を得るという意味でも、このイベントは良かったんじゃないかと思います。石棺を載せた修羅の上に立っていた人は、文化財担当の方でしたよね。そして、この方が「エイシャー！」声をかけると、皆それに合わせて力を入れるので、スーっと石棺が動くんですよ。

高木：（写真を見て）修羅の上にいるのは、高槻市立埋蔵文化財調査センターの鐘ヶ江一朗さんですね。その他、修羅の周りに半纏を着た人が写真に写っていますが、これが株式会社阿知波組とって、三ツ塚古墳出土の修羅の運搬やその後の市民向けの修羅曳きイベント（昭和 53 年）もこの会社が担当したんですよ。大型の品物を動かす事にかけて、うち以上の能力がある業者はいないと自負されていて。

藤本：昔から重量物運搬に定評がある会社ですよ。社長さんも体格が良くて、この人に任せれば何とかしてくれるというような雰囲気を持っておられましたね。

高木：三ツ塚出土の修羅は、大王のひつぎで復元した修羅のモデルになったものですが、たしか 8 m 位の大型のもの。

藤本：現物を初めて見た時、とても大きくてびっくりしました。

高木：今城塚古墳の修羅曳きイベントをした場所の横には、現在、大きな博物館（高槻市立今城塚古代歴史館）が建ってますね。

藤本：復元した埴輪などがきれいに整備されていて。

高木：発掘調査で出土した埴輪の模型を、原寸大で作って立てているんですよ。

下川：イベントで、これだけのギャラリーを集められたのはすごいですよね。

高木：このイベントの仕掛人だった人が、今度の講演（令和 7 年 10 月 18 日予定）で宇土へ来ていただく森田克行さんですね。